地域協働学校（コミュニティ・スクール）

保護者・地域とともに 歴史を刻む LAST YEAR

共 創

ふじみ野市立東台小学校
学校だより第４号
令和６年７月１日

学校公開、ありがとうございました！

先月の学校公開では保護者・地域の皆様や卒業生など多数ご来校いただき、ありがとうございました。児童交流部会（集会委員会）企画の全校行事『東台 学校かくれんぼ』は、いかがでしたか。局の企画が流れ、このような形で統合に向けた思い出づくりを行いましたが、お陰様で、子ども達とともに私たち職員も本気で楽しむことができました。集会委員会の頑張りとご参加いただいた皆様のご協力に感謝！

１０日には、統合に向けた思い出づくりの第２弾として、地域交流部会企画『紫陽花プロジェクト』を行います。お家でアジサイを育ててみませんか？ 保護者・地域の皆様のご参加をお待ちしています。

七夕に寄せて

７月３日に、埼玉県の偉人 渋沢栄一さんが肖像となった新一万円札が発行されます。ゆかりの地では、お祭りムード一色のようです。この機会に、今日は、郷土に伝わる「近代日本経済の父」について調べてみました。（７月のお話朝会の概要です。）

出典：国立印刷局ホームページ（https://www.npb.go.jp/ja/n_banknote/index.html）

１８４０年、埼玉県深谷市の農家に生まれ、幼い頃から家業（藍や養蚕）を手伝い、学問を学ぶ。７歳から、隣村に住む従兄のもとへ通い、論語等を学ぶ。２３歳で幕府に追われ、故郷を離れる。２４歳から一橋家に仕え、徐々に力を認められるようになる。

１８６７年、将軍徳川慶喜の弟のお供として、パリ万博への同行に抜擢されると、独学でフランス語を学ぶ。フランスでは、近代的な技術・産業や経済・社会の制度などを見て帰国。その後、富岡製糸場や第一国立銀行の設立に貢献。さらには、民間人として、鉄道や造船など５００を超える企業の創設や育成に力を注ぎ、福祉や教育など６００を超える公共事業にも熱心に取り組んだ。

９１歳でこの世を去るまで、皆の幸せや国の豊かさについて考え、世の中の困っている人のために働き続けた。

（参考：渋沢栄一記念館ホームページ）

渋沢栄一さんは、皆さんと同じ年の頃、家の商売を手伝いながら、お父さんから読み・書き・算盤を習いました。当時は大学の制度もなく、自分で学ぶ以外に勉強する方法はなかったそうです。自らコツコツ学び続ける力を武器に、世に名前を残すことができたのは、とても立派ですね。皆さんも、学校で自分が知りたいなと思うことをいっぱい調べたり、勉強したりしていますね。

そして、九十一歳でこの世を去るまで、世の中の困っている人のために働き続けました。それは、困っている近所の人を助けようとする優しいお母さんの姿が、渋沢さんの心の中に生き続けたからです。こうした人思いの渋沢さんは、日本だけでなく海外でも交友関係が広く、多くの仲間と共に学び、たくさんのお弟子さんにも恵まれました。先日の『東台 学校かくれんぼ』のように、学年に関係なく、誰とでも仲良しの皆さんと同じですね。このように考えると、もしかしたら第２の渋沢栄一さんになれる人が、この東台小にもいるかもしれません。

お家で新一万円札を目にする機会があったら、多くの人に慕われた埼玉県生まれの渋沢さんを思い出してください。東台小の皆さんが、自ら学び続け、心優しい人になれるよう、七夕の空に願っています。